

ベトナム（ホーチミン市）交通事情

日建設計総合研究所 理事 上席研究員 児玉 健

ベトナムといえば何を思い浮かべますか？と問いかけると、“ベトナム戦争“、“アオザイ“、“フォー”とそれぞれの世代で答えが違っているとされています。それだけ、ベトナム戦争以後、劇的な変化を遂げている国であり、わが国とのつながりも強い国と言えます。小生は、ホーチミン市の都市計画関係の業務のため、2006～2008年にかけて、ホーチミン市（旧サイゴン市）に滞在した経験から、ベトナム、ホーチミン市の交通事情についてご紹介いたします。

1. ベトナムとホーチミンのご紹介

ベトナム国は、人口約87百万人（2008年）、面積33万km²であり、人口はわが国より少ないものの、面積、細長い形状は良く似ています。その中で、ホーチミン市は、人口約717万人（2009年）、毎年約20万人が増加し、2025年には、1,000万人のメガロポリスになろうとするベトナム最大の商都で、今でもフランス占領時代の建物が残る美しい街です。市の名前の由来は、ベトナム独立の父と言われる“ホーチミン”ですが、旧名称は“サイゴン”で、こちらの方がなじみのある方が多いのではないのでしょうか。



図1 ホーチミン市の位置と形状

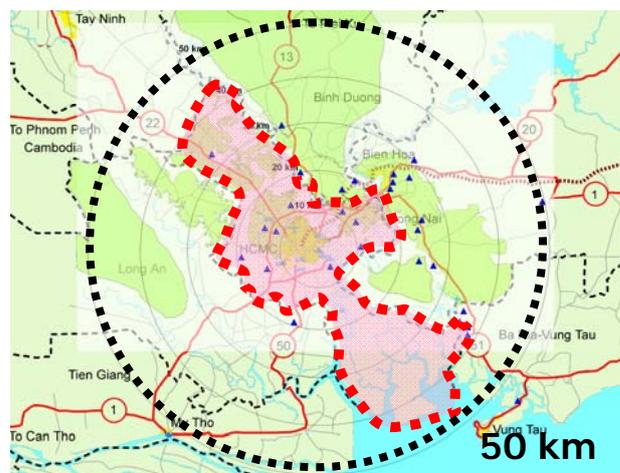


写真1 フランス占領期の建物が残る風景



2. とにかくバイクの波

1) バイクの増加

ベトナムを訪れた人がまず驚くのは、そのバイクの多さでしょう。朝、夕のピーク時には、まるで川のようにバイクが道路を流れており、そこを安全に横断するのはかなりの熟練を要するほどです。

交通機関分担率でみると、バイクは90%以上であり（2002年 JICA 調査）、市民のほとんどがバイクを利用していることとなります。他のアジアの諸都市と比べてもその保有率は高く、ホーチミン市の2009年時点のバイク保有台数は約390万台であり、2000年からの9年間で約2.5倍の伸び率となっています。この390万台は大阪市の自動車保有台数と

同程度です。

表 1 自動車、バイクの保有状況推移

年	2000年	2009年
自動車保有台数(千台)	131(1.0)	385(2.9倍)
バイク(千台)	1,569(1.0)	3,876(2.5倍)
自動車保有率(台/1000人)	25	56
バイク(台/1000人)	368	586

資料：HCMC Road Traffic Authority データ



写真2 バイクの波

3. 生活の糧、幸せを運ぶバイク

バイクは市民の足として、通勤、通学、仕事などの他に物流、タクシー代わりに使われています。荷物はバイクの荷台に巧みに乗せて運ぶ風景をよく見かけます。また、市内のあちこちにバイクタクシー（セオムと言いますが）白タク運転手が“1ドル”と声をかけてきます。何回か後部座席にりましたが、なれない人にはあまりお勧めできません。

バイクは単なる移動手段だけではなく、週末のデート、夕方の夕涼みなどで利用されることも多く、金曜日の夕方、クリスマス、バレンタインデーなどはさらに多くのバイクに乗った人がまちなかにあふれ、まさに生活そのもの、幸せと一緒に動くバイクと言っても良いでしょう。



写真3 氷を荷台に乗せているバイク



写真4 夕方の市内の風景

4. 公共交通利用事情

1) バス

多くの方がバイクを利用していますが、ホーチミン市内ではバスも良く使われています。利用している人の多くがバイクの高校生、高齢者（特に女性）、若い女性です。小生も1年間程度通勤に使っていましたが、障害を持った方なども見かけました。

バスの車両で良く見かけるのは緑色のバスですが、市内路線にはベンツ製の青いバス、小型バス、2階建てバス、ワンステップバスなどいろいろなタイプがあります。また、障がい者用のリフトを備えたバスなどもあります。ホーチミンからベトナム国内の都市を結ぶ長距離路線バスも人気が高く、首都ハノイまででも2,000円程度で、国内旅行、帰省などに使わ

れているようです。

現地でのバスに関するレポート、新聞などによるとバス路線の案内が分かりにくい、バスが遅れるなどで利用者が減少気味であるとの指摘もあります。ホーチミン市がこれから1,000万人のメガロポリスとして、持続可能で環境にやさしい都市として成長するためには、公共交通である路線バスサービスの充実が急務であり、せっかく車両のハード面は充実しつつあるなか、世界の都市で導入が始まっているBRT (Bus Rapid Transit) などの導入、ソフト面での充実が進むことが望まれます。



写真5 (左から) バスターミナル風景、障害者用リフト付バス



写真6 (左から) 二階建てバス (路線バス)、長距離バスターミナル、長距離用バス

2) 都市内鉄道の事情

現在、ホーチミン市内にはホーチミンとハノイを結ぶベトナム鉄道の路線だけがあります。一方、都市内鉄道は6つの都市内高速鉄道路線が構想・計画されています。その中の地下鉄1号線が、2016年にベトナムではじめての都市内高速鉄道として、日本のODAで事業が進んでいます。(開業時点は現時点での予定です)。ホーチミン市が成長を続けるために実現が期待されるところです。



写真7 ホーチミン市郊外の鉄道路線



写真8 中部地域フエ駅で列車を待つ人々